

平成 17 年 10 月 21 日(金)の 13:30 から 17:00 まで、神戸大学海事科学部総合学術交流棟 1F コンファレンスホールにおいて、第 22 回物流研究会が 75 名の参加者を得て開催された。

今回の研究会では、「一般講演」として、日本包装学会輸送包装研究会との共催による「輸送包装セミナー」が行われ、続いて従来から行われている本研究会からの一般講演が行われた。続いて研究会会員および関係者によって「研究会総会」が開催された。本研究会の具体的な内容は以下の通りである。

## 1. 一般講演

以下に示す 5 件の講演が行われ、活発な議論が行われた。なお前半 3 件が日本包装学会輸送包装研究会との共催によるもので、後半 2 件が従来的一般講演である。

- ・「トラック情報ネットワークシステム」  
大鶴祥介(株トワード物流)

トラック輸送事業に課せられた課題は、燃料費を安く、安全に、かつ貨物の品質を維持した輸送が求められ、また荷主へのアピールと環境への配慮等がある。そこでトラックの運転席に情報端末を積載することによって、運航管理、運転者の安全対策、運航経費削減、環境負荷への配慮等が提唱できるシステムの紹介が行われた。計測された情報はドライバーへの教育にも利用できるものであり、管理者だけでなく、従事者全体で問題を解決するために役立てられるものである。

- ・「輸送状況リアルタイム監視システム」  
尾澤 保(株GNF)

通信衛星・一般地上通信網と、ビデオカメラ・各種センサー・GPSを組み合わせて、現場と遠隔事務所との双方向通信を可能にすることによって、トラック、コンテナ、船舶を対象としたリアルタイムで輸送状況を監視できるシステムが紹介された。具体的には、走行状況や輸送物の画像、車両の位置や定点通過時刻、輸送振動データ等の

情報をリアルタイムで事務所に伝送することができるものである。これによって、緊急時への対応をスムーズにするほか、安全性の確保、荷主への貨物情報に関して細かなサービスが提供できるものである。

- ・「荷物にやさしい高品質輸送サポートサービス」

永江隼平(三菱電機ロジスティクス(株))

荷台の輸送振動の大きさは、貨物の荷痛みに大きく影響する。そこで走行中の荷台の振動・衝撃具合をリアルタイムで運転者に知らせることができるシステムについての紹介があった。計測事例として、タイヤの空気圧や輸送環境の違いによってどのような影響があるかの説明があり、今後の検討課題についても触れられ、実用化に向けてさらなる発展が期待できるものである。

- ・「衝撃計測ユニットを用いた荷台振動計測の有効性」

森田 勉(神戸大学大学院生)

齋藤勝彦(神戸大学大学院)

輸送中の貨物の荷痛みに大きく関係する荷台の振動を計測することを目的として、衝撃計測ユニットを利用した荷台衝撃計測実験の結果について紹介が行われた。一般道路や高速道路において実測実験結果が示され、荷崩れや荷痛みの原因の究明や新しい包装設計技術の開発にこうした装置の利用が大きく寄与するものと考えられる。

- ・「メガシップ対応港湾の効率的運用」

服部真洋(神戸大学大学院生)

今井昭夫(神戸大学)

コンテナ船の大型化が進む中、超大型船の導入効果を発揮するには、寄港地数を減少し、そこでの取扱貨物は膨大になり、現行方法とは異なるバース利用を考える必要がある。そこで国内にはないが、海外には既に存在する両舷荷役可能なドック型バースを考慮した、船の利用バース決定を簡便に行える方法の紹介があった。従来の連続バースと比較して、超大型船はより多くの岸壁クレーンを投入できるため作業時間は短くて済むが、フィーダー船にとってはバ

ースを利用できる時間が短くなるためより総在港時間（各船の待ち時間＋荷役時間の総和）が長くなる結果になるという結果が得られた。なおこの時間長による評価は、複雑なターミナル作業による影響をコスト換算することが難しいため、代用している旨の説明もあり、今後の展開が期待される所である。

## 2. 研究会総会

研究会総会ではまず、次年度に向けてのプロジェクト研究のテーマが発表され、神戸大学大学院の張 錦韜氏より研究内容の概要説明が行われた。

なおプロジェクト研究とは、研究会のメンバーよりプロジェクト研究としてテーマを募り、採択されたものに一定の予算を配分し、本研究会で発表してもらうことを目的としている。ここ数年秋季の研究会で、前年度採択されたプロジェクト研究の成果報告が行われ、次年度に行われる新たなプロジェクト研究の概要説明を発表もらうことになっている。

「時間窓制約付きバース割当計画」

張 錦韜（神戸大学大学院）

国内主要港でのコンテナ取扱が減少している昨今、国土交通省はスーパー中樞港湾育成プロジェクト、つまり複数バースを複数船社で利用する、マルチユーザーターミナルとしての形態での利用を推奨している。本研究ではこのような形式のターミナルを対象に、船の利用バース決定方法を提案するが、船の出港が予定より遅れる場合、さらにコストがかさむため、この遅れをなるべく解消するような問題を解決する方法を検討する。

また来年の春季研究会では、ここ数年行っている「物流講習会」を行うことが確認された。テーマについては、商学系が専門の方に、貿易関係の内容をご講演頂く方向で進めることになった。

## 3. 研究運営委員会

研究会前に運営委員会が開催され、以下の件について議論が行われた。

（1）次年度春の研究会について

例年通り「物流講習会」を行うことを確認した。また講習会のテーマについては、商学系専門の先生や実務者の方にアジアや東欧州の貿易関係について行ってほしいといった意見、トラック業界の省エネ対策等について講習してほしいなどといった意見が出された。

さらに大学院生の発表の機会を多くしたいとの意見があり、旅費の関係から、関東方面の大学院生の発表を1、2件程度盛り込んだらどうかとの意見があった。

（2）学会および研究会の活性化に向けて

以前より、他の学会や研究会の方にも参加して頂きやすい環境を作りたいとの意見があり、できるだけ早い時期に、プログラムを確定し、日本包装学会等に研究会開催情報を配信したり、業界紙に載せるようにすればどうかとの意見があった。

（3）プロジェクト研究の承認

次年度プロジェクト研究の公募に対し、神戸大学大学院の張 錦韜氏より希望があったが、これを採択することが承認された。

（4）ホームページの管理について

現在、物流研究会における一般講演やプロジェクト研究などの内容は、物流研究会のホームページ（URL：<http://miho.hiroshima-cmt.ac.jp/~NL/>）にて公開されている。継続して広島商船高等専門学校の永岩先生に管理をお願いできることになった。

（幹事：西村悦子）